

ニュースレター

——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<16. 1. 1~16. 1. 31>

1月6日

■独マックス・プランク研究所などの研究グループは、知的発達が遅れる「精神発達遅延」に関係する遺伝子を究明。(日経)

■乳がん治療薬「タモキシフェン」と、その副作用である顔面紅潮などの治療用に抗うつ剤と一緒に服用すると、乳がん治療の効果が低下する可能性があることが米インディアナ大の研究で明らかに。(読売)

1月10日

■イクラや塩辛など、塩蔵魚介類をほぼ毎日食べる人は、ほとんど食べない人に比べ男性で約3倍、女性で約2.5倍も胃がんになりやすいことが、厚生労働省研究班による4万人追跡調査で明らかに。(読売)

1月13日

■体外受精でもなかなか妊娠しない不妊の女性は、受精卵を子宮ではなく卵管内に移植する「卵管内移植」だと妊娠率が約3倍に高まること、セントマザー産婦人科医院(北九州市)の田中温院長の研究で明らかに。(読売)

1月16日

■東京都老人総合研究所と産業技術総合研究所、キリンビールなどのグループは、難病の筋ジストロフィーが細胞表面にある「糖鎖」という分子の形成異常で起きることを究明。(日経)

1月19日

■糖類の一種「トレハロース」がハンチントン舞踏病などの神経難病の発症を遅らせることを、理化学研究所脳科学総合研究センターの貫

名信行チームリーダーらがマウスを使った実験で究明。(読売)

■2日に1回以上魚をよく食べる男の人は、食べるのが週1回未満と少ない人に比べて死亡の危険度が3割前後減っていることが、全国の約9,000人を19年間追跡した調査で明らかに。(朝日)

■東大の森口尚史特任助教授らはC型肝炎から発展する肝臓がんの治療後にインターフェロンを投与すると、再発の可能性を低減できることを究明。(日経)

1月20日

■男性は、体力の目安とされる「有酸素能力」(酸素を体内に取り込む能力)が高いほど糖尿病になる危険性は低いことが、東京ガス健康開発センターの調査で明らかに。(読売)

1月23日

■独協医大の上田秀一教授(解剖学)らが、キレやすいネズミを人工的に作り出すことに成功。(朝日)

■アルツハイマー病の早期画像診断につながる物質を、ベンチャー企業のビーエフ研究所(大阪府吹田市)が開発し、マウスで効果を確認。(朝日)

1月27日

■カフェイン入りのコーヒーを1日に6杯以上飲むと糖尿病になりにくいという研究結果を、米ハーバード大などの研究チームが、12万5,000人以上を対象に12~18年間にわたり追跡した大規模調査で明らかに。(読売)